市長タウンミーティング結果まとまる

問い合わせ
市長室
政策担当

13会場　市民と直接対話

市では、市政に関する意見や今後の市政運営について、広く市民のみなさんの意見を求めるため「市長タウンミーティング」を6月中旬から8月上旬にかけて実施しました。門沢橋コミセンを皮切りに市内13カ所で開催し、498人の参加がありました（下表）。

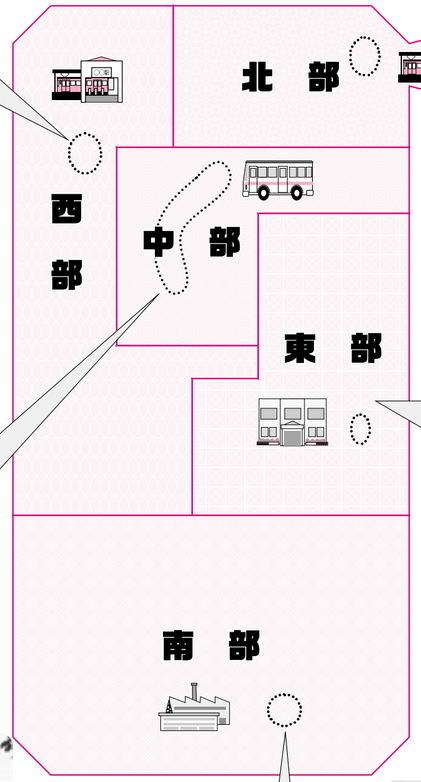
この「タウンミーティング」では、「海老名市第三次総合計画の実施計画策定に向けた地域の課題」などについて市長が、市民のみなさんと直接対話を行いました。今回、その結果がまとまりましたので、お知らせします。

日　時	会　場	参加者
6月12日	門沢橋コミセン	44
6月19日	国分コミセン	44
	杉久保コミセン	18
6月20日	中新田コミセン	24
6月26日	上今泉コミセン	60
6月27日	海老名プライムタワー	35
7月3日	社家コミセン	42
	国分寺台文化センター	37
7月4日	河原口自治会館	36
7月17日	柏ケ谷コミセン	35
7月18日	大谷コミセン	19
7月19日	本郷コミセン	30
8月6日	下今泉コミセン	74
	合　計	498

⬆タウンミーティング参加人数

タウンミーティングで説明する内野市長（6月27日海老名プライムタワー）

主な地域別意見…



◆上郷・下今泉・中新田・さつき町・河原口

西部地域では、海老名駅西口の区画整理や厚木駅周辺の整備などの意見がありました。また、相模川に面している地域ということで水害のハザードマップの整備、安心安全の地域づくりの観点から消防資機材の整備に関わる補助金の継続受給を望むなどの意見がありました。

▼混雑する厚木駅周辺

◆中央・国分南・国分北・望地・勝瀬

中部地域では、すでに試験運行しているコミバスの現状と他地域の運行予定について意見がありました。また、民間施設の誘致計画や伊勢山自然公園の整備、中心市街地整備計画、市道1号線対策などについての意見がありました。

コミュニティバス運行中!!

◆柏ケ谷・東柏ケ谷・上今泉

北部地域では、交番や市役所の支所・図書館の設置に関する意見がありました。また、上今泉5丁目と国分北3丁目（緑苑団地）の遊水地の有効利用についての意見がありました。

▲かしわ台駅に連絡所がオープン

国分寺台文化センター・ケアセンター

◆大谷・国分寺台・浜田町

東部地域では、中学校の給食、通学路の整備、市長のマニフェスト達成度の公表についての意見がありました。他には、公共施設などのバリアフリー化、災害弱者への対応などの意見もありました。

▲高座施設組合についての話題も…

◆中河内・上河内・本郷・社家・今里・中野・門沢橋

南部地域では、さがみ縦貫道路のジャンクション建設による移転問題や道路計画について、南部地域のコミバス運行を望む意見がありました。

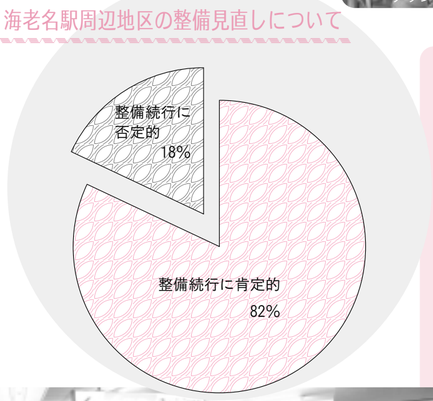
他には、最終処分場問題、高座施設組合付近でのダイオキシン問題、調整区域での下水道整備を望む意見などがありました。

☆ご意見・ご要望は市政運営に…

自由意見では、生活に密着した身近な問題として、自宅周辺の道路補修や歩道整備を求める声が多く寄せられ、早期に実施できるものについては、担当課と協議しながら対応しました。

「市長タウンミーティング」は、市民のみなさんの意見・要望を市政に反映するため、今後も地域からの要望があればテーマを定めて随時開催します。

海老名駅周辺地区の整備見直しについて



利用者であふれかえる駅通路（小田急海老名駅）

テーマ①「海老名駅周辺地区の整備見直し」

自由通路駅舎部の整備については、税収アップ効果や、バリアフリー化対応、災害時等の安全を確保する観点から、整備の必要性・緊急性を認め、自由通路駅舎部の整備続行を求める意見が大半を占めました。

その中でも、当初の計画をそのまま実施するのではなく、その内容について精査すべきである。そして、費用負担割合の考え方も含めて精査のプロセスや、その内容の公表を求める意見が大半を占めていました。

中には、自由通路は現在のままで十分で、駅舎の改良のみ鉄道事業者の負担で実施すべきだ。また海老名駅だけでなく市内9カ所の駅すべてを考えるべきだという意見もありました。

海老名駅前の交通渋滞の緩和策など、駅周辺整備関係の意見や要望も数多くありました。

次のように変わります

タウンミーティングの結果を踏まえ、駅舎部自由通路の計画を見直します。

駅舎部自由通路の設計見直し後の、概算事業費と鉄道事業者との費用負担割合は、下表のとおり。

自由通路は、駅とその周辺を歩行者専用の立体施設で結ぶ構想に基づき、①利用者の「利便性・安全性」の確保②将来のまちづくりを見据えた歩行者動線としての「東西市街地の一体化」③周辺地区への回遊性を高め「まちのにぎわいを創出」することを主な目的としています。

駅舎部の自由通路と駅舎改良が一体で整備されることによる効果の一例としては、①鉄道間の乗り換え客と、その他の利用者が、立体的に分離され、安心して利用できるようになります②駅の内外でエレベーターやエスカレーター、多目的トイレの整備などバリアフリー化を進め、快適な施設になります。また、駅前広場の一般車乗降場等とのバリアフリー化も実現します。

今後も市民のみなさんからの意見を参考に設計の見直しとともに、鉄道事業者との協議調整に努めます。

問　駅周辺対策課。

事業費と費用負担

当初設計	事業費	自由通路（29億円）	海老名駅の改良（100億円）		全体129億円
	費用負担	海老名市（102億円）		鉄道事業者（27億円）	
見直し案	事業費	自由通路（27億円）	海老名駅の改良（57億円）		全体84億円
	費用負担	海老名市（49億円）		鉄道事業者（35億円）	

50億円　100億円

・上記見直しについては、現時点の概算額を表示したもので、今後の変更詳細設計および内容変更等により変動します。
・見直しの事業費は、通路幅員の縮小と、通路の形を相鉄既存駅舎へ極力影響しないよう変更した場合の減額を想定しています。
・費用負担の考え方は、自由通路については市負担。駅の改良については、自由通路整備に伴う既存駅舎の補償は市負担、既存駅舎からの増加増強は鉄道事業者負担としています。

テーマ②「海老名市第三次総合計画の実施計画策定に向けて」

人口の高齢化を反映して、ケアセンターの増設やデイサービスの充実、老人医療関係施設への要望等、高齢者対策への要望が多くありました。

他には、不法投棄などのごみ対策やさがみ縦貫道路等の開通による影響なども踏まえた道路整備、防犯・防災対策の充実を望む意見もありました。